

ふるさと わがまち わが地域

八百比丘尼(やおびくに)伝説の伝えありし

乗原(のんばら)地区 250627

世帯数 21世帯
人口 51人
(平成25年5月末)

世帯数 26世帯
人口 136人
(昭和30年10月1日)

★地区概要

乗原地区は、養蚕を主産業としていましたが、やがて織物製造に変化し、現在は少子高齢化により限界集落の地区です。かつては町内で唯一の茶工場を持ち、毎年5月中旬頃、摘み取った茶の葉を区で経営する工場で製品化していました。昭和12年頃から続けられて乗原茶の製造は、数年前(5~6年)に途絶えて「幻の茶」となっています。乗原と言えば「こんにやく」というほど地元では有名ですが、こちら商品としての生産者は、僅かとなり希少価値が高まっています。また、八百比丘尼の口碑があります。



乗原バス停
(入り口)



乗原生活改善センター

生活改善センターでは、地域の問題(鳥獣被害等)や、行事(おひまち、祭、敬老会、)等に利用されています。右の写真は、生活改善センター前に鎮座しているお地藏さんです。地域の幸せを願いセンター前に祀られています。



乗原と言えば「こんにやく」。地元ではあまりにも有名です。特徴は、生芋を使用しているの「こんにやく」の繊維が壊れていません。弾力はあるのにとっても歯切れが良く、サクサクとした芋の食感が味わえます。(製造者注釈より引用)



乗原で手作り「こんにやく」を作っている皆さんです。前列の方が昔ながらのフワフワ!モチリ★プリプリ!!製法を指導された川戸秀美さんです。商品によっていろんな食べ方があります。「道の駅レシピ」で掲載していますので、インターネットで検索してみてください。お好みに食していただけます。(※こんにやく芋を生産される農家を探されています。)



地元では「大池」(おいけ)と呼ばれている防火用水も兼ねた池です。



旧配水地跡



竹野地区の簡易水道整備事業により、古くなった旧配水池に代わり、平成19年に新しく建設された乗原配水池です。水は筆石浄水場から送られてきます。



稲荷神社



秋葉神社



八柱神社(祭神・素盞鳴神)



宮蔵



愛宕神社

文化・歴史



猿田彦神社



お墓の入口にある地蔵尊

八百比丘尼(やおびくに・はっぴやくびくに)・**千年比丘尼**(せんねんびく)

昔、丹後町乗原で一人の修験者が庚申(こうしん)待ちの催しをした。ある家の少女が修験者の出した人魚の肉を食べた。それ以来、少女は歳を重ねても老いず、ついに齢八百歳を超えたので、人は八百比丘尼といった。比丘尼はいったん家を出、再び帰郷、しかし、また家を出て若狭で死んだという。比丘尼家の西一帯の古松並木は、この比丘尼が植えたもの、古並木に至る一丁余の道に方一尺余の石を布いて歩き易くしたのも比丘尼だという。若狭で死んだ比丘尼は八百姫明神(やおひめみょうじん)として祀られたといわれている(『丹後国竹野郡誌』)。(引用京丹後市の伝承・方言より)

八百比丘尼は本家代々の位牌の中に大切に保存されていると言伝えられています。